

こんにちは。嘱託員の村上です。

現在、市民図書館7階・8階では企画展示「人物で紐解く近代スポーツ～あすなろ国体から40年～」を行っています。この展示は昭和52年（1977）の第32回国民体育大会（「あすなろ国体」）開催から40年という節目の年を迎えることから企画しました。そこで、今回は「あすなろ国体」についてお話ししたいと思います。

国民体育大会（国体）は財団法人日本体育会（現日本体育協会）が第二次世界大戦後の荒廃と混乱の中、スポーツを通して国民に勇気と希望を与えることを目的として企画したもので、第1回大会は夏・秋季大会が昭和21年に京阪神地区で、冬季大会（スケート競技）が翌年に八戸市で開催されました。その後は各都道府県の持ち回り方式で毎年開催されています。

青森県が国体の誘致に向けて動き出したのは昭和36年のことでした。この年、隣の秋田県で国体が開催されたこともあり、誘致の機運が高まっていたようです。この時は第22回大会（昭和42年）の誘致を目指しましたが、最終的に埼玉県が開催県に選ばれました。

再び青森県が国体の誘致に向けて動き出したのは第25回大会（昭和45年）の直後でした。ちなみに、第25回大会は岩手県が開催県でしたが、実は夏季大会の水泳・飛込競技だけは青森市安田の青森県総合運動公園水泳場で行われています。開催県ではありませんが、「あすなろ国体」以前にも青森市は国体の競技会場に選ばれていたのですね。

その後、第32回大会（昭和52年）の国体開催に向けて準備を進めた結果、昭和48年に第32回大会開催県として内定を得、翌年正式決定となりました。

「あすなろ国体」はそれまでの国体とは違い、冬・夏・秋季の全シーズンを通して同一県で行う史上初の「完全国体」として行われました。青森市では夏・秋季大会の開・閉会式、水泳、陸上、バレーボールなどの競技が行われました。



あすなろ国体開会式の様子（昭和53年『市勢要覧』）

また、バドミントンの競技会場となった浪岡町では、宿泊施設が足りなかったため民家を宿泊場所とする「民泊」を実施しました。選手を自家用車で送迎するなど町民の献身的な協力により「民泊」は大成功を収めました。

昨年、青森県は第80回国民体育大会（2025年）の開催県として内々定を得ました。宮田地区では国体の会場としての活用が期待される新青森県総合運動公園陸上競技場の建設も進められています。どのような大会になるのか、今から楽しみです。